Osaka University Knowledge Archive

Title	道の途中で : 樹木
Author(s)	大貫, 惇睦
Citation	大阪大学低温センターだより. 2014, 161, p. 36-37
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/27387
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

道の途中で―樹木―

琉球大学理学部　　大貫　惇睦*

沖縄の特徴的な樹木を３つ挙げて下さいと問われると、多くの人はいろんな木が頭の中をよぎり困るのではないでしょうか。沖縄に住んで１年の私は、良く見かけるガジュマル、フクギ（福木）、デイゴと答えるでしょう。でも赤みを帯びた木肌が美しいアカギも捨てがたいし、イヌマキも良い。首里金城の大アカギを見ると圧倒される。樹木と呼んで良いか分からないが、あのオヒルギ等のマングローブも奇妙でおもしろい。

この質問を沖縄の趣味の友にしたら、桜から始まり、イッペイ、デイゴ、ホウオウボク（鳳凰木）と花が咲き出しますと答えてくれた。私の質問を花木ととらえたらしい。私が毎日通う琉球大学の極低温センターの周囲にも、ガジュマル、デイゴ、ホウオウボクなどが多く見られる。沖縄の桜は、濃いピンクの寒緋桜（カンヒザクラ）と呼ばれるが、１月末が満開で、名護の八重岳は有名である。山道を登ってゆくと桜が道のべの左右に咲き乱れている。背後には亜熱帯の濃い緑の樹木があるので、吉野の桜とは趣きがまるで異なる。初めて聞くイッペイという樹木は、小学校の庭で見たが、昨年の大型台風の影響で今年は咲かないようだ。

私が挙げたガジュマルであるが、大阪に住んでいたとき、家内がガジュマルの小鉢を買ってきた。冬は家の中で寒さを避けたが、そのうち面頭になり日当たりの良い軒先においた。冬の寒さで葉は茶色になり、春を迎えた頃には大方の葉は落ちてしまったが、何とか冬を生きのびて育っていった。数年経った引っ越しのある日、鉢のまま車に入れようとしたら全く動かなかった。鉢底の穴から根が地中に張って、抜けなくなってしまったのである。片付けたノコギリを取り出して根を切り、鉢を地面から引き離したのである。その後、ベランダで育てたが、気根もたくさんたくわえ大きくなり、手を合わせたくなるほど神々しさを備えてきた。首里城の拝所（ウガンジュ）のガジュマルもそんな趣がある。

ガジュマルは台風でも葉が枯れることなく、生命力がとても強い樹木である。フクギ（福木）もガジュマルに似ていて、両方とも葉肉が厚く、強い紫外線にも耐える濃い緑色の葉に特徴がある。備瀬（びせ）のフクギ並木は一見に価し、300年くらい経っているガジュマルが村落の一家一家の周囲をおおっている。ボランティアでフクギの数を数えた研究室の学生さんによると、およそ19000本とのこと、見事な財産である。

夏の頃、太い幹がバッサリと切られた枝のないデイゴを見た。何という残酷なことをするんだろう、枯れてしまうのではないかと心の中で憤慨した。しかし半年後、こんもりとした枝や葉に変貌したのにはびっくりした。デイゴの葉は海水を含んだ台風で、ほとんど落ちてしまうが、11月頃から芽吹き、４月頃にはしっかりした葉に戻ってしまう。

＊大阪大学名誉教授

大阪に18年余住んだが、マイナーな映画を観るのが家内と私の楽しみであった。その中で「カフーを待ちわびて」という映画があった。カフー（果報）とは、良い知らせ、しあわせの意で、主人公の青年は、島を出て行った母親がいつの日か戻ってくることを願って毎日を送っている。犬にカフーと名付けているので、カフーという言葉が忘れられないものになる。この映画の中でも、家の近くの大きなガジュマル、防風林のフクギ、校庭にそびえ立つデイゴが描かれていた。ある美しい女性が「私をお嫁さんにして下さい」と突然登場するが、この女性はどういう人なのか分からないまま映画は過ぎてゆく。本土のお盆に相当する行事の、祖先をむかえる夜のシーンは心に染みた。そして最後になって、その女性が青年の母親が島から持っていったというデイゴの枝で作ったペンダントをデイゴの木に戻すことにより、状況が分かってくる。

さて趣味の友に、ホウオウボクの次には何が咲くのですかと問うたところ、いろんな花が咲きますとのこと。確かに、ハイビスカス、ブーゲンビレア等の花はいつも咲いている。昔読んだ田中克己の詩をのせて結びとします。

南の島から一人の少女が
バナナを一房おみやげにもって来た
摂氏三十五度の気候とバナナの房が
僕にいろいろのことを思ひ出さす
昭和十七年には僕はまだ若かったので
そのころおぼえたことを忘れないのだ
ブーゲンヴィレア、猩々木、みな赤い花だった

ガジュマルの小枝に張りついて動かないキノボリトカゲ